(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3559992号
(P3559992)
(45)発行日　平成16年9月2日(2004.9.2)　(24)登録日　平成16年6月4日(2004.6.4)

(51)Int.Cl.7　F I
E03C　1/06　E03C　1/06

請求項の数 5　(全 16 頁)

(21)出願番号　特願2001-17686(P2001-17686)
(22)出願日　平成13年1月25日(2001.1.25)
(65)公開番号　特開2002-220861(P2002-220861A)
(43)公開日　平成14年8月9日(2002.8.9)
審査請求日　平成15年9月9日(2003.9.9)

(73)特許権者　000000479
株式会社ＩＮＡＸ
愛知県常滑市鯉江本町５丁目１番地
(74)代理人　100089440
弁理士　吉田　和夫
(72)発明者　居石　浩行
佐賀県多久市東多久町大字別府３４６２番地　株式会社　佐賀イナックス内
(72)発明者　堀内　満
東京都墨田区太平１丁目７番２０号太平町ビル６Ｆ　株式会社　フロンテア内

審査官　河本　明彦

最終頁に続く

(54)【発明の名称】シャワーフック装置

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
（Ａ）スライドバーを挿通させる挿通孔を有し、該挿通孔において該スライドバーに対しスライド可能に固定される本体と、（Ｂ）該本体に設けられるとともに軸心方向の両端が開口形状の掛止孔を有し、該掛止孔に対してシャワーヘッドを該開口を通じ軸心方向に掛止させるフック部とを備え、且つ該本体は
（イ）軸心と直角方向に間隔を隔てた状態で該軸心方向に延び出す複数のアームを備えた内筒部材と
（ロ）軸心方向一端が開口形状の外筒部材と
（ハ）前記アームの先端部に脱着可能に結合されて該外筒部材の開口を閉鎖するエンドキャップと
（ニ）該エンドキャップと反対側の軸心方向端部に設けられて前記本体を前記スライドバーに固定操作するためのハンドルと
（ホ）該ハンドルの回転により前記内筒部材の内部で軸心方向に進退する第１挟持部材と
（ヘ）前記エンドキャップに相対回転可能に保持されて、該第１挟持部材とともに前記スライドバーを挟持する第２挟持部材と
を有するとともに、前記外筒部材には前記エンドキャップに続く部分において且つ前記アームとアームとの間の部分において前記スライドバーを挿通する挿通孔が形成されており、該挿通孔を横切る分割線に沿って該外筒部材が軸心方向に分割可能とされていることを特徴とするシャワーフック装置。

【請求項２】
請求項１において、前記フック部が前記本体の側方に突き出す状態で設けてあるとともに、前記外筒部材における前記フック部に固定の第１部分と、前記挿通孔形成部分である第２部分とが軸心方向に分割可能且つ該第１部分が該第２部分及び前記内筒部材に対し回転方向位置が可変となしてあって、互いに嵌合する該第１部分の内周面と該内筒部材の外周面とに、嵌合の回転角度位置を９０°ごとに規制する位置決手段が設けてあることを特徴とするシャワーフック装置。
【請求項３】
請求項２において、前記位置決手段として、前記外筒部材における前記第１部分の内周面と前記内筒部材の外周面との一方に軸心方向に延びる突起が、他方に溝がそれぞれ設けてあることを特徴とするシャワーフック装置。
【請求項４】
請求項１～３の何れかにおいて、前記フック部の掛止孔の内面には、該掛止孔の軸心方向の中間位置から該掛止孔の各端の開口に向って幅が互いに逆向きに広がる形態の一対の掛止面が形成してあることを特徴とするシャワーフック装置。
【請求項５】
請求項１～４の何れかにおいて、前記掛止孔の軸心方向の中間位置には、シャワーヘッドの回転防止用の弾性材から成る突出部が設けてあることを特徴とするシャワーフック装置。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
この発明は浴室等においてシャワーヘッドを掛止して保持するためのシャワーフック装置に関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来浴室においては、洗い場水栓に対して可撓性のシャワーホースを介して接続されたシャワーヘッドを保持するため、浴室の壁にシャワーフック装置及びスライドバーを含むシャワーヘッド保持装置を設置することが行われている。
【０００３】
図１８はその一例を示している。同図において２００はそのシャワーヘッドで、可撓性のシャワーホース２０２を介して図示を省略する洗い場水栓に接続されている。
２０４はシャワーヘッド保持装置で、浴室の壁に設置された縦向きのスライドバー２０６と、このスライドバー２０６にスライド可能に固定されたシャワーフック装置２０８とを含んでいる。
【０００４】
２１０はシャワーフック装置２０８における本体で挿通孔２１２を有しており、その挿通孔２１２においてスライドバー２０６にスライド可能に固定されている。
この本体２１０にはハンドル２１４が設けられており、そのハンドル２１４の回転操作によって、挿通孔２１２における本体２１０のスライドバー２０６への固定と固定解除とがなされる。
【０００５】
本体２１０にはまたフック部２１６が設けられている。
このフック部２１６は縦の掛止孔２１８を有しており、その掛止孔２１８に対してシャワーヘッド２００を差し込み掛止することで、シャワーヘッド２００がフック部２１６に、即ちシャワーフック装置２０８に保持されるようになっている。
【０００６】
ここで掛止孔２１８の内面には、シャワーヘッド２００のテーパ形状に対応したテーパ形状の掛止面が形成されている。
その掛止面は下端から上端にかけて幅が広がる向きのテーパ形状とされており、そのため

シャワーヘッド２００を掛止孔２１８に対し下向きに差し込むだけで、シャワーヘッド２００を掛止孔２１８に掛止し保持させることができる。

【０００７】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながらこの種従来のシャワーフック装置２０８の場合、これを取り付けるためにはスライドバー２０６の設置時に、そのスライドバー２０６を挿通孔２１２に挿通させる状態にシャワーフック装置２０８を同時に設置しなければならず、後においてシャワーフック装置２０８をスライドバー２０６から簡単に取り外したり、或いは既に設置されているスライドバー２０６に対して後付けでシャワーフック装置２０８を簡単に取り付けるといったことができないものであった。

【０００８】

従って例えば各家庭等において、使用者が既に設置してあるスライドバー２０６に対して後付けで好みのシャワーフック装置２０８を取り付けるといったことができないものであった。

【０００９】

更に従来一般のシャワーフック装置２０８の場合、同一のシャワーフック装置２０８においてハンドル２１４をスライドバー２０６に対して左側に位置させたり又は右側に位置させたりすること（フック部２１６をスライドバー２０６に対して右側に位置させたり左側に位置させたりすること）のできないものであって、フック部を右側に位置させる場合には右側専用の、また左側に位置させる場合には左側専用のシャワーフック装置２０８をそれぞれ必要とするといった問題があった。

【００１０】

尤も、図１８においてフック部２１６を本体２１０と別体とした上で本体２１０のフック取付部２２０を回転可能となし、そしてフック部２１６をフック取付部２２０に脱着可能となしておくことで、本体２１０を縦のスライドバー２０６回りに１８０°回転させ、そしてフック取付部２２０を水平な軸心回りに１８０°回転させた後、そこに一旦取り外したフック部２１６を取り付けるようになすことで、同一のシャワーフック装置２０８を右利き用及び左利き用の何れにも、即ちフック部２１６がスライドバー２０６に対して右側に位置する状態及び左側に位置する状態の何れにも設置できるようにするといったことが考えられる。

しかしながらそのようにした場合、シャワーフック装置２０８のフック部２１６周りの構造が複雑化してしまうといった問題を生ずる。

【００１１】

また従来のシャワーフック装置２０８は何れも縦向きのスライドバーに対して取り付けられることを前提としており、従って例えば横向きのスライドバーに対してこれを取り付けるということのできない問題があった。

【００１２】

近年、浴槽への給湯システムは自動給湯システムが主流となっており、この場合浴槽に対して給水，給湯等を行うための浴槽側の水栓が取り付いていないケースが多く、このような場合、浴槽を洗ったり注し湯をしたりする際、洗い場水栓側のシャワーヘッドを浴槽側に持ち来して、そのシャワーヘッドから給水，給湯等を行ったりするが、この場合浴槽側の壁にシャワーヘッドを掛止して保持する部分がなく、それら作業をするに際して不便を生じていた。

【００１３】

このため、場合によって浴槽側の壁にシャワーフック装置を追加設置するといったことも行われているが、この場合シャワーヘッドの掛止保持可能な位置が固定されてしまい、シャワーヘッドを使っての作業を円滑に行うことができない。更にまた、浴槽側の壁にシャワーフック装置を追加設置したくても、そこに横向きの握りバー等が設置されていたりするとこれが邪魔となって、シャワーフック装置の追加設置可能な位置が握りバーを避けた位置に限定されてしまうといった問題が生じていた。

【００１４】
この場合において浴槽側の壁に設置されている横向きの握りバーに対してシャワーフック装置を取り付けることができれば好都合であるが、従来のシャワーフック装置の場合そのような機能は有していない。
【００１５】
【課題を解決するための手段】
本発明のシャワーフック装置はこのような課題を解決するために案出されたものである。而して請求項１のものは、（Ａ）スライドバーを挿通させる挿通孔を有し、該挿通孔において該スライドバーに対しスライド可能に固定される本体と、（Ｂ）該本体に設けられるとともに軸心方向の両端が開口形状の掛止孔を有し、該掛止孔に対してシャワーヘッドを該開口を通じ軸心方向に掛止させるフック部とを備え、且つ該本体は（イ）軸心と直角方向に間隔を隔てた状態で該軸心方向に延び出す複数のアームを備えた内筒部材と、（ロ）軸心方向一端が開口形状の外筒部材と、（ハ）前記アームの先端部に脱着可能に結合されて該外筒部材の開口を閉鎖するエンドキャップと、（ニ）該エンドキャップと反対側の軸心方向端部に設けられて前記本体を前記スライドバーに固定操作するためのハンドルと、（ホ）該ハンドルの回転により前記内筒部材の内部で軸心方向に進退する第１挟持部材と、（へ）前記エンドキャップに相対回転可能に保持されて、該第１挟持部材とともに前記スライドバーを挟持する第２挟持部材とを有するとともに、前記外筒部材には前記エンドキャップに続く部分において且つ前記アームとアームとの間の部分において前記スライドバーを挿通する挿通孔が形成されており、該挿通孔を横切る分割線に沿って該外筒部材が軸心方向に分割可能とされていることを特徴とする。
【００１６】
請求項２のものは、請求項１において、前記フック部が前記本体の側方に突き出す状態で設けてあるとともに、前記外筒部材における前記フック部に固定の第１部分と、前記挿通孔形成部分である第２部分とが軸心方向に分割可能且つ該第１部分が該第２部分及び前記内筒部材に対し回転方向位置が可変となしてあって、互いに嵌合する該第１部分の内周面と該内筒部材の外周面とに、嵌合の回転角度位置を９０°ごとに規制する位置決手段が設けてあることを特徴とする。
【００１７】
請求項３のものは、請求項２において、前記位置決手段として、前記外筒部材における前記第１部分の内周面と前記内筒部材の外周面との一方に軸心方向に延びる突起が、他方に溝がそれぞれ設けてあることを特徴とする。
【００１８】
請求項４のものは、請求項１～３の何れかにおいて、前記フック部の掛止孔の内面には、該掛止孔の軸心方向の中間位置から該掛止孔の各端の開口に向って幅が互いに逆向きに広がる形態の一対の掛止面が形成してあることを特徴とする。
【００１９】
請求項５のものは、請求項１～４の何れかにおいて、前記掛止孔の軸心方向の中間位置には、シャワーヘッドの回転防止用の弾性材から成る突出部が設けてあることを特徴とする。
【００２０】
【作用及び発明の効果】
上記のように本発明は、スライドバーにスライド可能に固定される本体と、掛止孔においてシャワーヘッドを掛止させるフック部とを備えたシャワーフック装置において、その本体を、軸心と直角方向に間隔を隔てて延びる複数のアームを備えた内筒部材と、その外側の外筒部材と、外筒部材の軸心方向一端の開口を閉鎖するエンドキャップと、その反対側の軸心方向端部に設けられたハンドルと、そのハンドルの回転により内筒部材の内部で軸心方向に進退する第１挟持部材と、エンドキャップに相対回転可能に保持され、上記第１挟持部材とともにスライドバーを挟持する第２挟持部材とを含んで構成し、且つその外筒部材にスライドバーを挿通する挿通孔を形成するとともに、その挿通孔を横切る分割線に

沿って外筒部材を軸心方向に分割可能となしたもので、このシャワーフック装置の場合、スライドバーに固定される本体が挿通孔部分で軸心方向に分割可能であることから、予め設置してあるスライドバーに対しこれを挟むように挿通孔をスライドバーに嵌め合わせ且つ分割部分を軸心方向に結合することで、シャワーフック装置をスライドバーに対して後付けで取り付けることが可能となる。

【００２１】

従って本発明によれば、例えば各家庭等においてスライドバーが既に設置してある状態で、必要に応じ後付けでシャワーフック装置をスライドバーに対しスライド可能に取り付けるといったことが可能となる。

またその際、使用者の好みのシャワーフック装置を取り付けることが可能となる。

【００２２】

次に請求項２のものは、フック部を本体の側方に突き出す状態に設けるとともに、外筒部材を、そのフック部に固定の第１部分と挿通孔形成部分である第２部分とを軸心方向に分割可能となし、且つその第１部分を第２部分及び内筒部材に対して回転方向位置を可変となし、そして互いに嵌合する第１部分の内周面と内筒部材の外周面とに、嵌合の回転角度位置を９０°ごとに規制する位置決手段を設けたもので、このシャワーフック装置の場合、フック部の位置を単独で本体の軸心回りに９０°ごと変更することができる。

【００２３】

従って、例えばそのフック部を本体の軸心回りに１８０°位置変更することで、同一のシャワーフック装置を用いてこれを縦のスライドバーに対し、フック部が右側に来る位置にも又左側に来る位置にも取り付けることができる。

即ち同一のシャワーフック装置を右利き用としてもまた左利き用としても構成することができる。

【００２４】

更にまたフック部を本体の軸心回りに９０°位置変更することで、このシャワーフック装置を縦向きのスライドバーに対しても、また横向きのスライドバーに対しても取り付けることが可能となる。

それ故、洗い場水栓から延び出したシャワーヘッドを用いて浴槽に注し湯をしたり或いは浴槽を洗ったりする際、そのシャワーヘッドを、浴槽側の壁に設置した横向きのスライドバーに取り付けられたシャワーフック装置に保持させておいて、その状態で作業を行うことが可能となり、しかもスライドバーに沿ってシャワーヘッドの保持位置が変更可能であって、最も使い易い位置にシャワーヘッドを位置させておくことができるため、同作業の作業性が飛躍的に向上する。

【００２５】

更にまたそのシャワーフック装置の取付用スライドバーとして横向きの握りバーを用いることができるため、浴槽側にシャワーフック装置を追加設置する際に、その設置位置が握りバーを避けた位置に限定されてしまうといった不都合も解消することができる。

【００２６】

このシャワーフック装置はまた、フック部が本体の軸心回りに１８０°位置変更可能であるため、Ｌ仕様の横向きのスライドバーに対しても、またＲ仕様の横向きのスライドバーに対しても、フック部が本体に対し何れも同じ側に、例えば洗い場側に来るようにして取り付けることが可能となる。

即ち洗い場から見て、横向きのスライドバー（握りバー）が右側の位置に設置されている場合、また左側に設置されている場合の何れであっても、フック部が例えば本体に対し何れも洗い場側に位置するような状態で取り付けることが可能となる。

【００２７】

ここで上記位置決手段として、外筒部材における第１部分の内周面と内筒部材の外周面とに、軸心方向に延びる突起と溝とを設けておき、それらを嵌め合せることで、第１部分と内筒部材との回転方向位置を定めるようになすことができる（請求項３）。

【００２８】

請求項４のものは、上記フック部の掛止孔の内面に、掛止孔の軸心方向の中間位置から掛止孔の各端の開口に向って幅が互いに逆向きに広がる形態の一対の掛止面を形成したもので、このようにしておくことで、フック部を本体の軸心回りに１８０°位置変更して右利き用から左利き用に或いはその逆になした場合においても、その掛止孔に対しシャワーヘッドを適正に掛止することができる。

【００２９】

或いはまた横向きのスライドバーに対しシャワーフック装置を取り付けるようにし、その際Ｌ仕様のスライドバーに対してシャワーフック装置を取り付けた場合にも、更にはまたＲ仕様のスライドバーに対しシャワーフック装置を取り付けた場合にも、適正に掛止孔に対しシャワーヘッドを掛止することができる。

【００３０】

請求項５のものは、掛止孔の軸心方向の中間位置に弾性材から成る突出部を設けたもので、このようにしておけば、掛止孔にシャワーヘッドを掛止させたとき、その弾性材をシャワーヘッドに弾性接触させることで、掛止孔に掛止したシャワーヘッドが回転方向に位置ずれしてしまうのを良好に防止することができる。

【００３１】

【実施例】

次に本発明の実施例を図面に基づいて詳しく説明する。

図１，図２において、１０は本例のシャワーフック装置で、断面が円形状をなす本体１２と、その本体１２の軸心と直角方向の側方に突き出す形態で設けられたフック部１４とを有している。

フック部１４には掛止孔１６が設けられており、そこにシャワーヘッドを掛止するようになっている。

【００３２】

この掛止孔１６の内面には、軸心方向の中間位置から各端の開口に向って幅が互いに逆向きに広がる形態のテーパ形状の掛止面１８が形成されている。

即ち掛止孔１６は、図１（Ａ）中上側の開口を通じて掛止孔１６にシャワーヘッドを掛止した場合にも、更にはまた図中下側の開口を通じ掛止孔１６にシャワーヘッドを掛止した場合の何れであっても、良好にこれを掛止保持できるようになっている。

【００３３】

尚この掛止孔１６の軸心方向中間位置には、弾性材から成るゴムストッパ（突出部）２０が内側に突き出す状態で設けられている。

このゴムストッパ２０は、掛止孔１６に掛止したシャワーヘッドが回転方向に位置ずれするのを防止する作用をなすものである。

【００３４】

上記本体１２には挿通孔２２が形成されており、その挿通孔２２に後述のスライドバー７４，８０を挿通させるようにして、本体１２がそのスライドバー７４，８０にスライド可能に固定されるようになっている。

本体１２は軸心方向の一端が開口形状をなしていて、その開口がエンドキャップ２４にて閉鎖されている。

更にまたそのエンドキャップ２４とは反対側の軸心方向端部にハンドル２６が回転可能に設けられている。

このハンドル２６は、本体１２をスライドバー７４，８０に固定し或いはまたその固定を解除操作するための部分である。

【００３５】

本体１２は、図３（Ｂ）に示しているように外筒部材２８と内筒部材３０とを有している。

内筒部材３０には、回転部材３２と、スライドバー７４，８０を挟持するための第１挟持部材３４とがその内部に組み込まれている。

これら回転部材３２と第１挟持部材３４とには雌ねじ部３６と雄ねじ部３８とが設けられ

ていて、それらが螺合されている。
一方の回転部材３２は、固定ビス４０によって上記ハンドル２６と締結され、それら回転部材３２とハンドル２６とが一体回転するようになっている。
【００３６】
ここで回転部材３２には外向きのストッパ４２が設けられており、また一方内筒部材３０には内向きのストッパ４３が設けられていて、それらストッパ４２，４３の軸心方向の当接により回転部材３２が図３（Ｂ）中左方向に後退阻止されている。
一方、上記第１挟持部材３４には図４（Ｂ）に示しているように突起４４が設けられており、この突起４４が内筒部材３０に形成された溝４５にスライド可能（軸心方向）に嵌め合されている。
【００３７】
即ちこのシャワーフック装置１０にあっては、ハンドル２６を回転操作するとこれと一体に回転部材３２が回転し、このとき第１挟持部材３４が雌ねじ部３６と雄ねじ部３８との作用によって螺進し、挿通孔２２に挿通されたスライドバー７４，８０の外面を押圧してこれを固定する。
尚第１挟持部材３４の内面は、外形が円形のスライドバー７４，８０に対応した形状の円弧形状の押圧面４６とされている。
【００３８】
内筒部材３０には、図５～図７，図９，図１０に示しているように、軸心と直角方向に互いに間隔を隔てた状態で軸心方向に延び出す一対のアーム４８が、周方向に１８０°隔たった２位置に設けられている。
これらアーム４８の先端部には雄ねじ部５０が設けられていて、その雄ねじ部５０に対し上記エンドキャップ２４の雌ねじ部５２がねじ結合されている。
【００３９】
図５及び図８に示しているようにこのエンドキャップ２４の内側には、上記第１挟持部材３４と協働してスライドバー７４，８０を挟持するための第２挟持部材５４が保持されている。
この第２挟持部材５４は、結合ピン５６によってエンドキャップ２４に対し相対回転可能に且つ抜止状態で結合されている。
この第２挟持部材５４の内面もまた、スライドバー７４，８０に対応した形状の円弧形状の押圧面４６とされている。
【００４０】
図１～図３及び図５に詳しく示しているように、外筒部材２８は、上記フック部１４の固定された第１部分５８と、挿通孔２２を形成している部分（第２部分６０）とが分割線P_1で軸心方向に分割可能とされている。
更にまた、第２部分６０が挿通孔２２の丁度半分の位置の分割線P_2に沿って半体６０Ａと６０Ｂとに２分割可能とされている。
【００４１】
即ち外筒部材２８は、第１部分５８が第２部分６０及び内筒部材３０に対して本体１２の軸心回りの回転角度位置が変更可能とされており、且つ９０°ごとにその位置が規制されるようになっている。
詳しくは、図４（Ａ）に示しているように第１部分５８の内周面には、周方向に沿って９０°ごとに位置決突起６２が設けられている一方、内筒部材３０の外周面には対応する９０°ごとの位置において位置決溝６４が形成されており、それら位置決手段としての位置決突起６２と位置決溝６４との嵌合に基づいて、第１部分５８が、フック部１４とともに第２部分６０及び内筒部材３０に対し、本体１２の軸心回りの回転角度位置において９０°ごとにその位置が変更可能且つ変更位置に固定されるようになっている。
これによりフック部１４の位置を単独で本体１２の軸心回りに９０°ごと変更することができる。
【００４２】

尚、図５に示しているように第２部分６０における半体６０Ａと６０Ｂとは、互いの回転方向位置を規定するための位置決突起６６と位置決凹部６８とが設けられている。
半体６０Ａ，６０Ｂは、互いに相手側の位置決突起６６と位置決凹部６８とに対し、自身の位置決凹部６８と位置決突起６６とを嵌め合せることで回転方向位置が定められる。
即ち半体６０Ａと６０Ｂとを合せた状態で丁度円形の挿通孔２２を形成するように、それらの組合せ位置が定まるようになっている。
【００４３】
尚、図４（Ｃ）に示しているように第２挟持部材５４と内筒部材３０とは、内筒部材３０詳しくはアーム４８の内周面に形成された位置決突起７０と、第２挟持部材５４の外周面に形成された位置決凹部７２との嵌合により回転方向位置が定められる。
【００４４】
図１１～図１７は本例のシャワーフック装置１０の作用を示している。
先ず図１１（Ｉ）は、シャワーフック装置１０を縦向きのスライドバー７４に取り付けた状態を示している。
このシャワーフック装置１０は、縦向きのスライドバー７４に沿って上下にスライド可能、即ち上下に位置調節可能である。
図１１（Ｉ）に示す状態では正面（ハンドル２６に対する正面）から見てフック部１４が本体１２に対し左側、即ちスライドバー７４に対し左側に位置している。
【００４５】
本例のシャワーフック装置１０は、この状態から図１１（ＩＩ）に示す状態、即ちフック部１４がスライドバー７４及び本体１２に対し右側に位置する状態に付け替えることができる（図１２参照）。
換言すれば、本例のシャワーフック装置１０は図１１（Ｉ）に示す状態及び（ＩＩ）に示す状態の何れの状態でもスライドバー７４に対し取り付けることができる。
【００４６】
ここで図１１（Ｉ）に示す状態から（ＩＩ）に示す状態にシャワーフック装置１０を付け替えるには次のようにすれば良い。
即ち、先ずエンドキャップ２４を取り外した上で、図１３に示しているように内筒部材３０をハンドル２６等とともに外筒部材２８から軸心方向に抜き出し、しかる後フック部１４及び外筒部材２８における第１部分５８を、図１１（Ｉ）及び図１３（Ａ）に示す状態から本体１２の軸心回りに１８０°回転させ、図１１（ＩＩ）及び図１３（Ｂ）に示しているようにフック部１４が本体１２に対し右側の位置に来るようにする。
【００４７】
その後再び内筒部材３０をハンドル２６等とともに外筒部材２８の内部に挿入し、更にその先端にエンドキャップ２４をねじ結合することで、フック部１４の位置ないし向きを、図１１（Ｉ）に示す状態から（ＩＩ）に示すように本体１２の軸心回りに１８０°逆向きの状態とすることができる。
そしてこの状態でシャワーフック装置１０をスライドバー７４に取り付けることで、図１１（ＩＩ）に示す状態を実現することができる。
【００４８】
このようにすれば、同一のシャワーフック装置１０を用いてこれを縦のスライドバー７４に対し、フック部１４が右側に来る位置にも又左側に来る位置にも取り付けることができ、同一のシャワーフック装置１０を右利き用としてもまた左利き用としても構成することができる。
【００４９】
尚このとき、フック部１４における掛止孔１６は上下の向きが逆向きとなるが、そのフック部１４の内面は孔軸心方向の中間位置を境として図中上側部分の掛止面１８と下側部分の掛止面１８とが互いに対称形状をなしているため、図１１（Ｉ）に示す状態の下においても又（ＩＩ）に示す状態の下においても、適正にその掛止孔１６に対しシャワーヘッドを各端の開口を通じ軸心方向に掛止することができる。

【００５０】
本例のシャワーフック装置１０はまた、図１７に示しているように浴室における浴槽７６側の壁７８に横向きの握りバーが設置されている場合において、これを横向きのスライドバー８０としてそこに取り付けることが可能である。
【００５１】
詳しくは、図１４（Ｉ）に示しているように（図１４（Ｉ）は図１１（Ｉ）と同じ状態である）、縦向きのスライドバー７４に取り付いていたシャワーフック装置１０を、上記と同様にして図１５に示すように本体１２を分解及び再結合することで、図１４（ＩＩ）に示しているように横向きのスライドバー８０に対しシャワーフック装置１０を、その横向きのスライドバー８０に沿ってスライド可能に取り付けることができる。
尚このときには、フック部１４及び外筒部材２８の第１部分５８の回転角度位置を本体１２の軸心回りに９０°変更（図では第２部分６０及び内筒部材３０側の回転角度位置を９０°変更）することとなる。
【００５２】
本例によれば、シャワーフック装置１０を縦向きのスライドバー７４に対しても横向きのスライドバー８０に対しても取り付けることができるため、浴槽７６に対し洗い場水栓８４（図１７参照）から延び出したシャワーヘッドを用いて注し湯をしたり或いは浴槽７６を洗ったりする際、そのシャワーヘッドを浴槽７６側の壁７８に設置した横向きのスライドバー８０に保持させた状態で作業を行うことができ、しかもスライドバー８０に沿ってシャワーヘッドの保持位置が変更可能であって、最も使い易い位置にシャワーヘッドを位置させておくことができ、同作業の作業性が飛躍的に向上する。
【００５３】
またそのスライドバー８０として横向きの握りバーを用いることができるため、浴槽７６側にシャワーフックを追加設置する際に、その設置位置が握りバーを避けた位置に限定されてしまうといった不都合も解消することができる。
【００５４】
更にまた本例のシャワーフック装置１０は、そのフック部１４の回転角度位置が本体１２の軸心回りに１８０°変更可能であるため、図１６（Ｉ）に示す状態（この状態は図１４（ＩＩ）と同じ状態）から再び本体１２を分解してフック部１４の位置ないし向きを１８０°変更し、その後本体１２を再結合して横向きのスライドバー８０にシャワーフック装置１０を取り付けることで、図１６（ＩＩ）に示す状態とすることができ、従ってシャワーフック装置１０をスライドバー８０に対しフック部１４が左側に来る位置と右側に来る位置との間で取付位置を変更することができる。
【００５５】
このことはまた、図１７（Ｂ）に示しているように横向きのスライドバー８０が洗い場８２から見て左側の壁７８に設置されている場合にも、また図１７（Ａ）に示しているように横向きのスライドバー８０が洗い場８２から見て右側の壁７８に設置されている場合にも、同じシャワーフック装置１０を用いて対応できることを意味している。
【００５６】
即ち同じシャワーフック装置１０を、図１７（Ｂ）のスライドバー８０に対しても、また図１７（Ａ）のスライドバー８０に対しても（スライドバー８０がＲ仕様のものでもＬ仕様のものでも）取り付けることができることを意味している。
尚、図１７（Ａ），（Ｂ）から明らかなように、これら何れの場合においても、フック部１４は本体１２に対し何れも同じ側、詳しくはこの例では洗い場８２側に位置している。
【００５７】
ここでフック部１４を本体１２の軸心回りに１８０°位置変更することで掛止孔１６の上下の向きが逆向きとなるが、この場合においても、掛止孔１６に設けられた一対の掛止面１８の作用により、適正に掛止孔１６に対しシャワーヘッドを掛止することができる。
【００５８】
本例のシャワーフック装置１０は、外筒部材２８における第２部分６０が、挿通孔２２を

横切る分割線P_2に沿って軸心方向に分割可能とされているため、挿通孔２２においてスライドバー７４，８０を挟む形で取付けでき、従って例えば各家庭等において既に設置してあるスライドバー７４，８０に対し、必要に応じ後付けでシャワーフック装置１０をスライド可能に取り付けることができ、またその際使用者の好みのシャワーフック装置１０を取り付けることができる。

【００５９】

以上本発明の実施例を詳述したがこれはあくまで一例示であり、本発明はその主旨を逸脱しない範囲において種々変更を加えた形態で構成可能である。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の一実施例であるシャワーフック装置を外観状態で示す斜視図である。

【図２】同じ実施例のシャワーフック装置の平面図及び正面図である。

【図３】図２におけるアーア断面図，イーイ断面図である。

【図４】図２におけるウーウ断面図，エーエ断面図，オーオ断面図である。

【図５】同じ実施例のシャワーフック装置を分解して示す分解斜視図である。

【図６】同じ実施例のシャワーフック装置を図５とは異なる分解状態で示す分解斜視図である。

【図７】同じ実施例のシャワーフック装置を図５，図６とは異なる分解状態で示す分解斜視図である。

【図８】同じシャワーフック装置におけるエンドキャップとその周辺部を分解して示す分解斜視図である。

【図９】同じ実施例のシャワーフック装置の略全体を分解して示す分解断面図である。

【図１０】図９の分解状態を斜視図で表す図である。

【図１１】同じ実施例のシャワーフック装置の取付けの変更例を示す図である。

【図１２】図１１の（Ｉ）から（ＩＩ）への取付けの変更を示す作用図である。

【図１３】図１２と同じ取付けの変更を斜視図で示す作用説明図である。

【図１４】図１１とは異なる取付けの変更例を示す図である。

【図１５】図１４の取付けの変更を斜視図で示す作用説明図である。

【図１６】図１１及び図１４とは異なる取付けの変更例を示す図である。

【図１７】浴室の内部を示す平面図である。

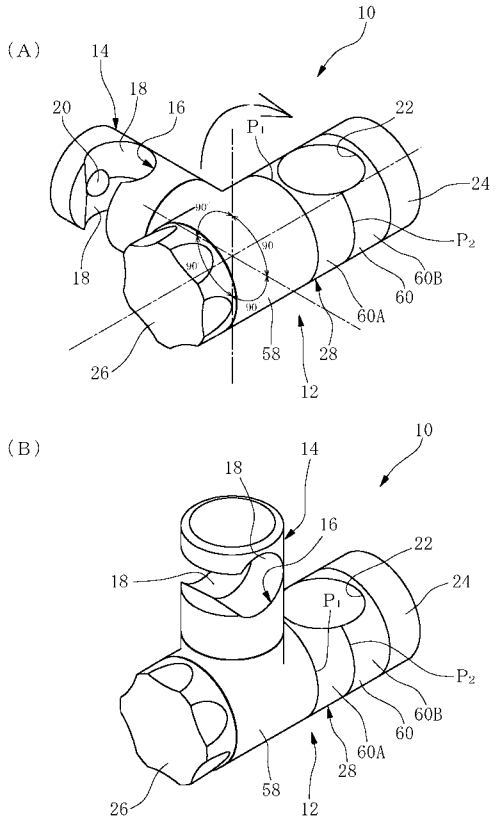
【図１８】従来のシャワーフック装置の一例を示す図である。

【符号の説明】

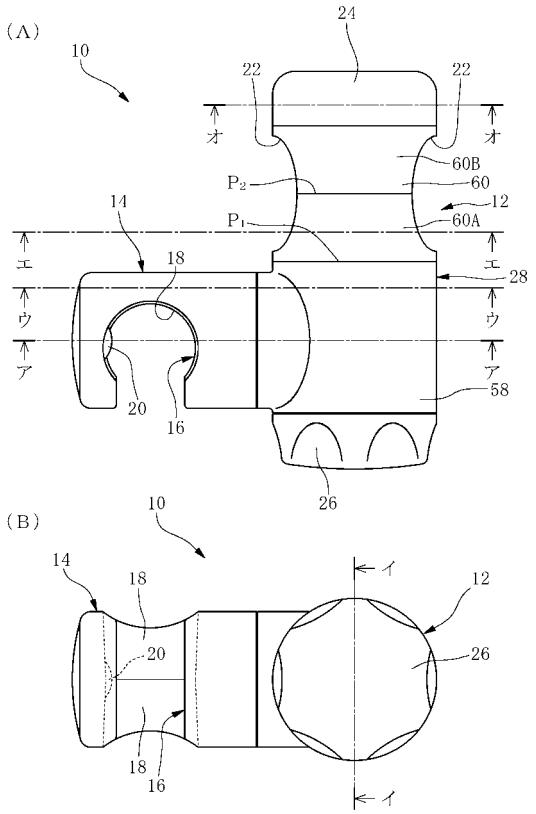
１０　シャワーフック装置
１２　本体
１４　フック部
１６　掛止孔
１８　掛止面
２０　ゴムストッパ（突出部）
２２　挿通孔
２４　エンドキャップ
２６　ハンドル
２８　外筒部材
３０　内筒部材
３４　第１挟持部材
４８　アーム
５４　第２挟持部材
５８　第１部分
６０　第２部分
６２　位置決突起
６４　位置決溝
７４，８０　スライドバー

P_2　分割線

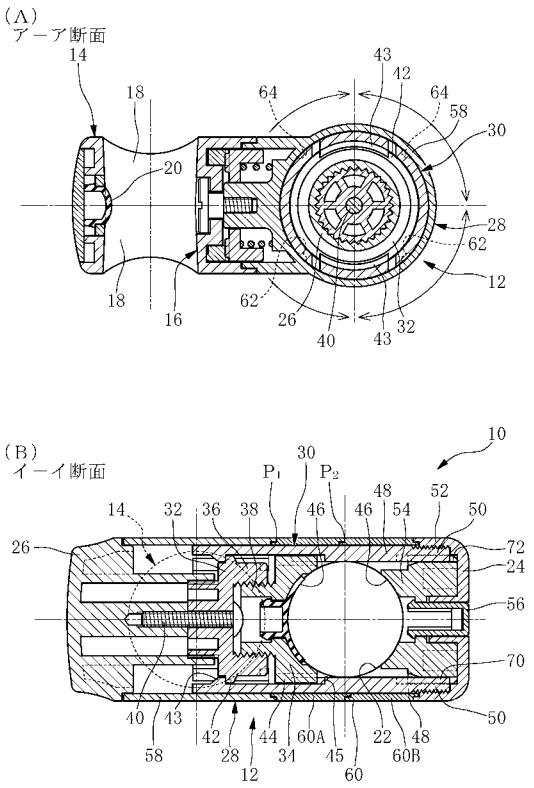
【図１】


(A)
10
14
18
16
20
22
P1
24
P2
60B
60
60A
28
58
12
26
(B)
10
14
18
16
22
24
P1
P2
60B
60
60A
28
58
12
26

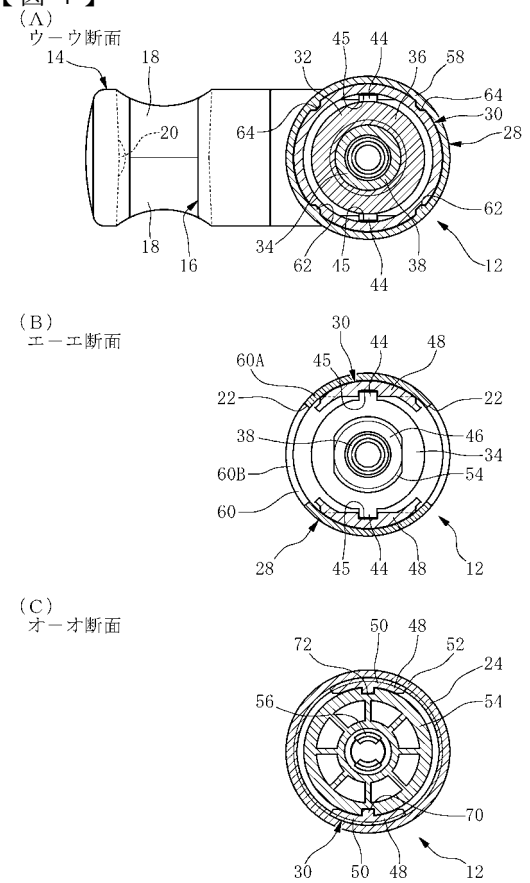
【図２】


(A)
24
10
22
22
オ
オ
60B
P2
60
12
14
P1
60A
エ
18
エ
28
ウ
ウ
ア
ア
58
20
16
26
(B)
10
イ
14
18
12
20
26
18
16
イ

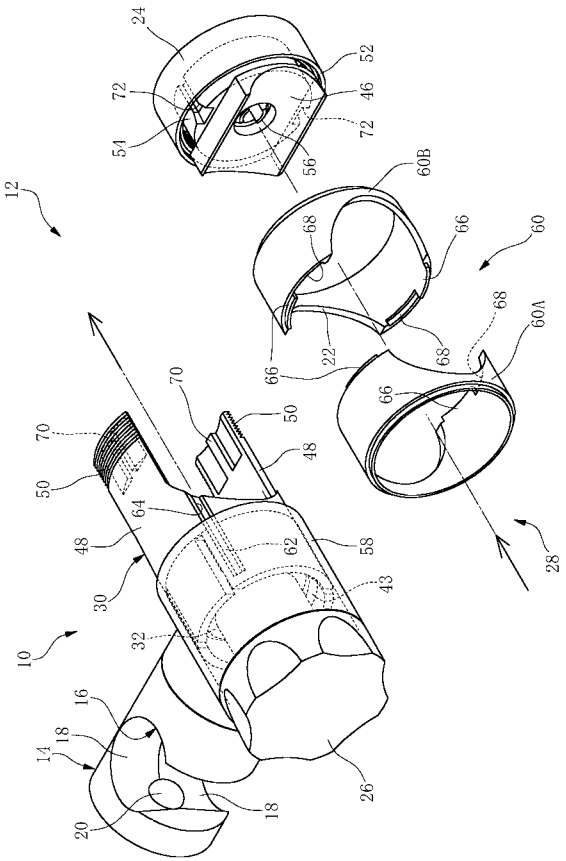
【図３】



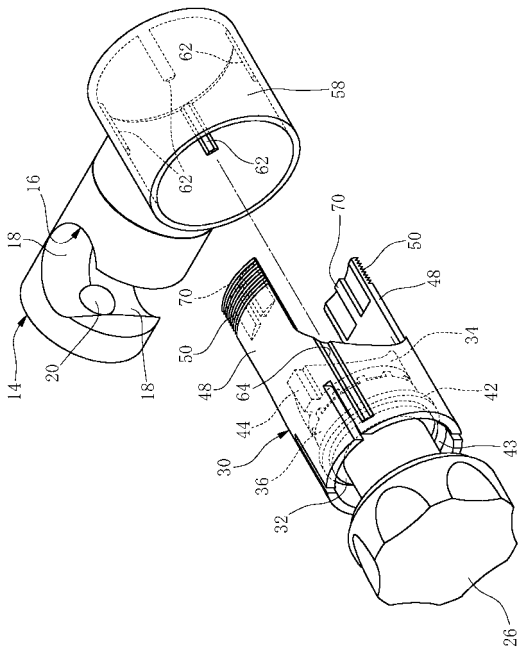
【図４】



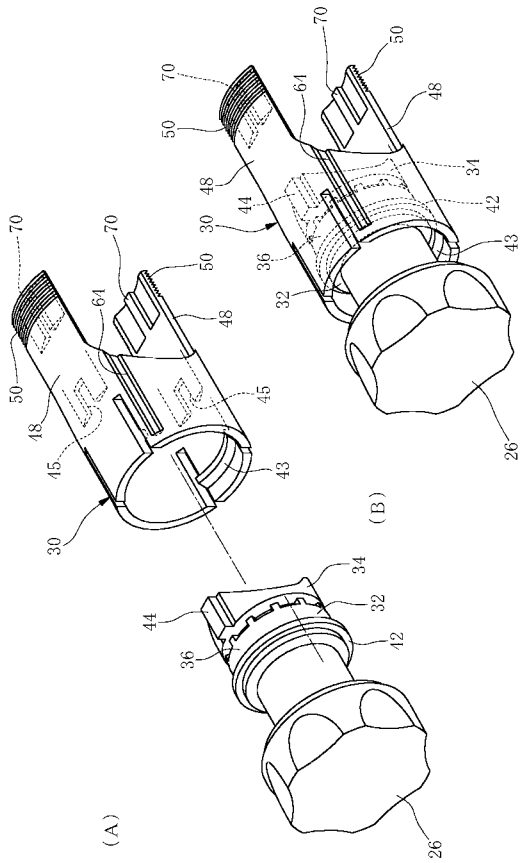
【図５】



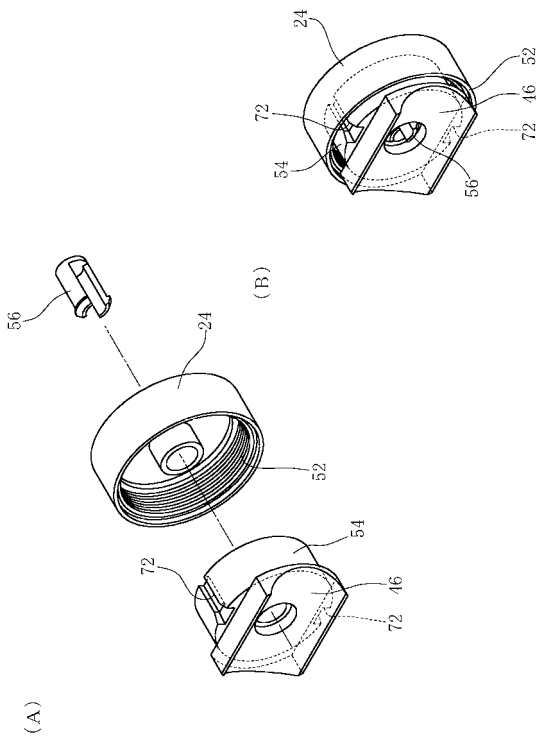
【図６】



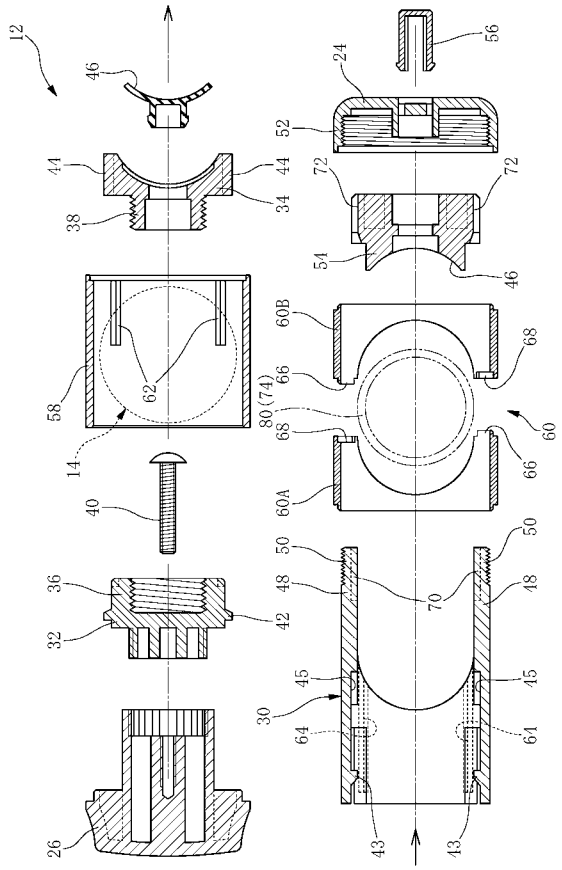
【図７】



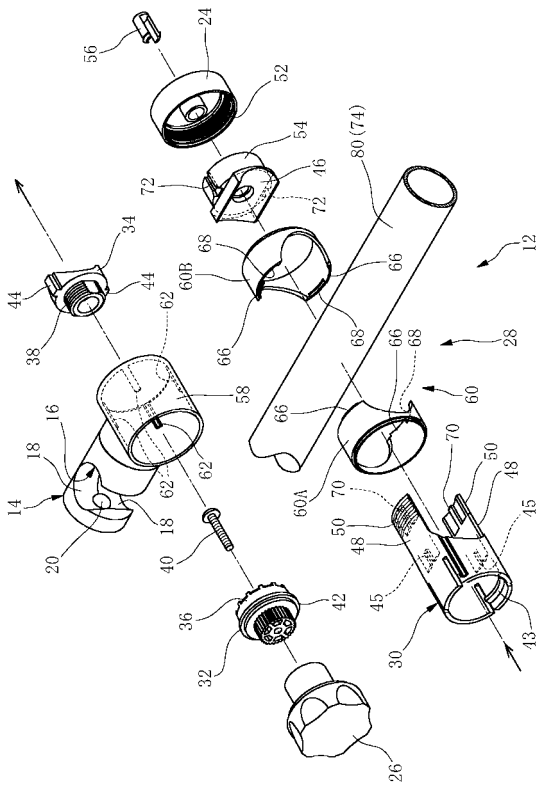
【図８】



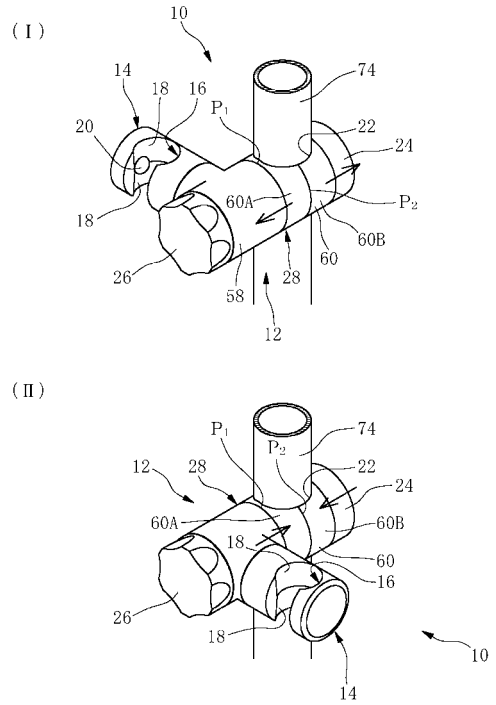
【図９】



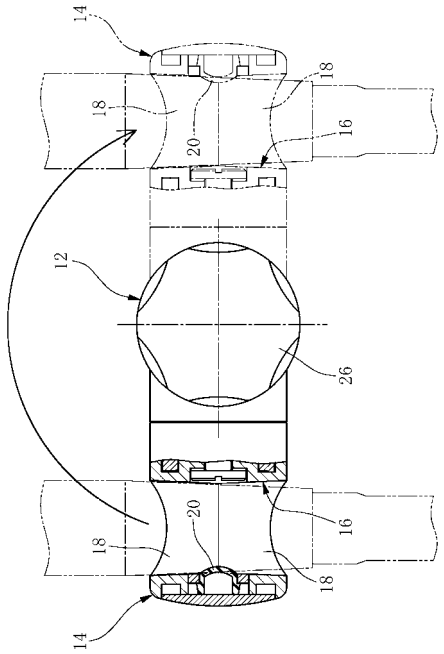
【図１０】



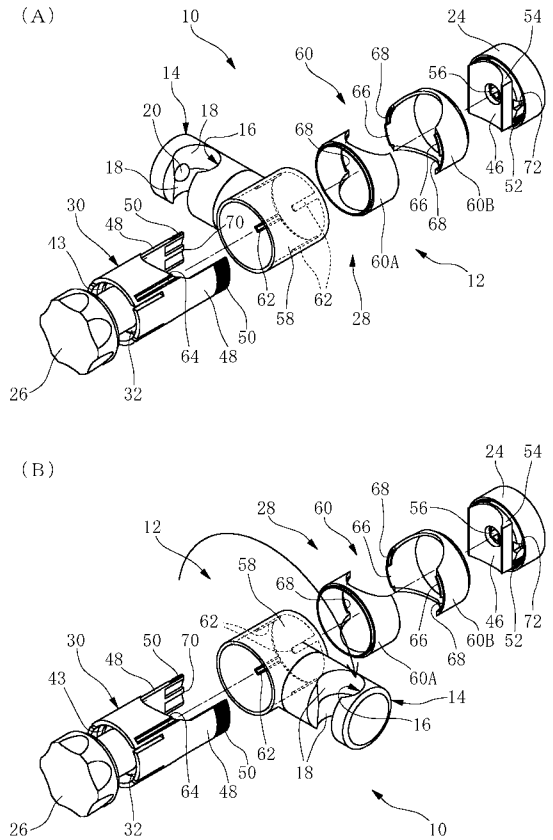
【図１１】



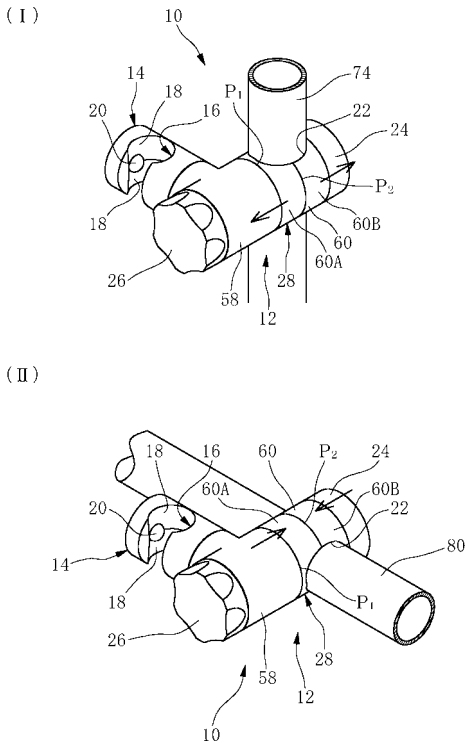
【図１２】



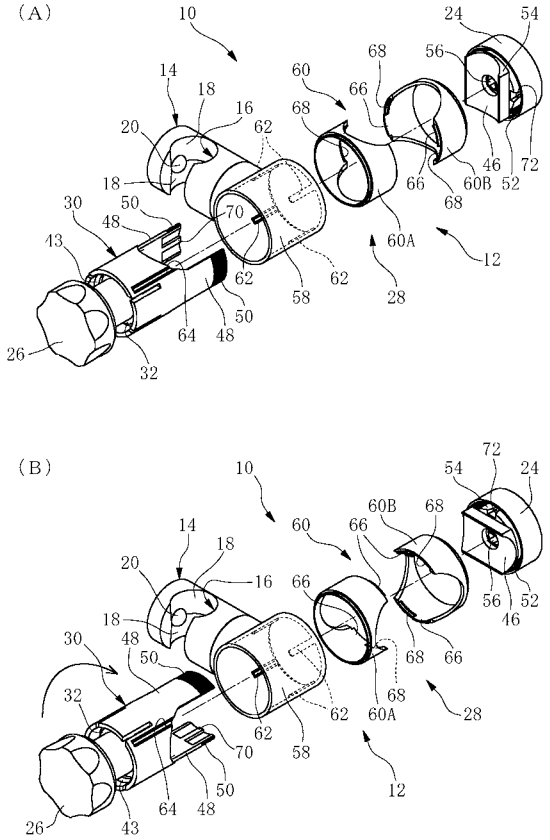
【図１３】



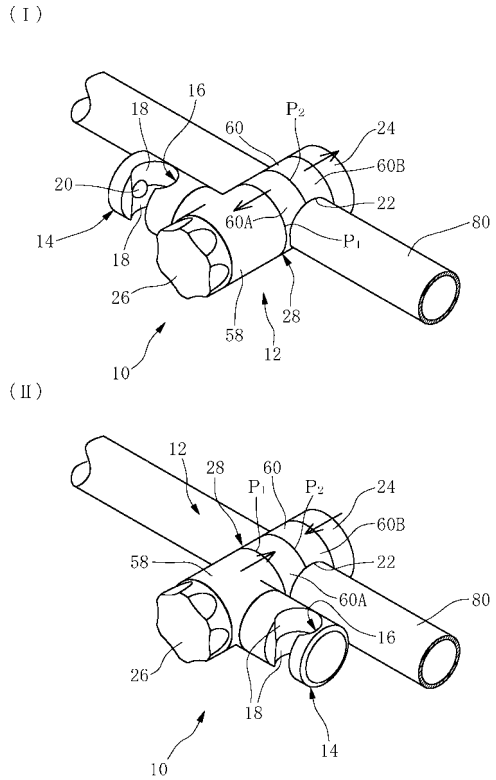
【図１４】



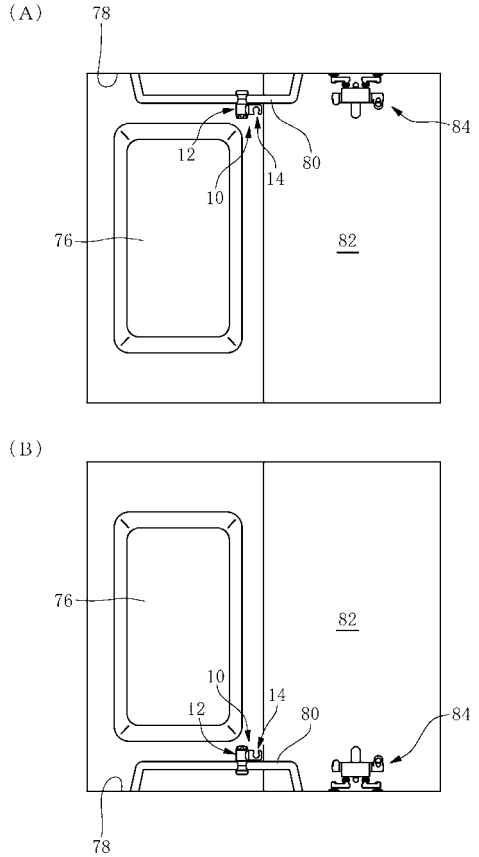
【図１５】



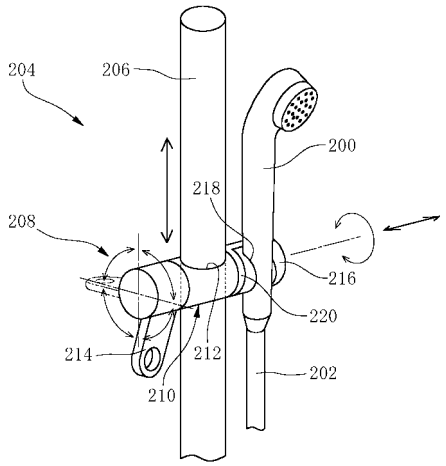
【図１６】



【図１７】



【図１８】



フロントページの続き

(56)参考文献　特開平０７－２６８９２０（ＪＰ，Ａ）
実開平０２－０１５６７０（ＪＰ，Ｕ）
特開２００２－１９４７８４（ＪＰ，Ａ）
特開２０００－３１９９６０（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.^{7}，ＤＢ名)
E03C 1/06